

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
麻生情報ビジネス 専門学校北九州校	平成8年3月4日	富田 博之	〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2丁目11番33号 (電話) 093-533-1133																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 麻生塾	昭和26年3月12日	麻生 健	〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
工業	工業 専門課程	コンピュータシステム科	平成19年文部科学省告示 第21号	-																			
学科の目的	コンピュータのスペシャリストとしてIT時代をリードする人材となるために、プログラムの基礎から応用まで幅広く学習し、国家資格やベンダー資格を取得し、ソフトウェア開発企業や一般企業のシステム開発部門で活躍できるコンピュータエンジニアを目指す。																						
認定年月日	平成27年2月17日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2年	昼間	1836時間	1004時間	832時間	0時間	0時間	0時間																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
80人	37人	0人	2人	7人	9人																		
学期制度	■前期: 4月1日から8月31日まで ■後期: 9月1日から3月31日まで		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 「教育目標」に準じた総合評価を行う。評価はS・A・B・C・Dの5ランクとする																			
長期休み	■夏 季 : 8月1日~8月31日 ■冬 季 : 12月23日~1月8日 ■春 季 : 3月1日~3月20日		卒業・進級 条件	ア. 指定科目すべての履修・修得 イ. 学年の出席率90%以上 ウ. 卒業基準検定の取得 エ. 学生としてふさわしい生活態度																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任、授業担当教員により、放課後等に、質問対応、個別やグループ単位での指導、個別相談を行っている。		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア等 ■サークル活動: 有																			
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) IT業界 ■就職指導内容 担任、就職担当職員により、キャリアデザイン、履歴書の作成、面接試験等についての指導、相談を行っている。 ■卒業者数 16 人 ■就職希望者数 16 人 ■就職者数 15 人 ■就職率 : 93.8 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 93.8 % ■その他 (平成 29 年度卒業者に関する 平成30年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術謝試験</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	16人	8人	応用情報技術謝試験	③	8人	2人				
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																				
基本情報技術者試験	③	16人	8人																				
応用情報技術謝試験	③	8人	2人																				
中途退学 の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 2.7 % 平成29年5月 1日時点において、在学者37名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者35名(平成30年3月31日卒業者を含む) 転科(出)者1名 ■中途退学の主な理由 健康上の問題のため ■中退防止・中退者支援のための取組 担任、学校カウンセラーによるガイダンス、家庭への電話連絡や三者面談の実施。																						
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 前年度の給付実績者数: 2名																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科の ホームページ URL	http://www.asojuiku.ac.jp/abkc/subject/cs/																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生の主な就職先であるIT業界においては、情報系分野の基礎理論と基礎知識の修得に加え、現場で必要とされている最新技術の修得や問題解決能力が求められる。そのような人材を育成するため、企業と連携し教育の質を確保する。また、本校では専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。

また、業界で仕事をされている兼任教員や、学生の就職先企業の方との意見交換を随時行う。さらに、就職先企業に対しお客様アンケートを実施することにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことによつて得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした教育課程編成委員会を置く。委員会では、以下に示す事項を審議する。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

教育課程編成委員会の意見は、主任等が主宰する各学科または各系のカリキュラム会議において検討し、カリキュラムの改善(授業科目の新設・改編や、授業方法の改善・工夫)などに行き届く限り反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
岡村 宏幸	産業経済局企業支援・産学連携部企業立地支援課 情報・通信産業担当課長	H30/4/1 ~ H31/3/31(任期1年)	①
池田 隼人	(株)メンバーズ ラーニングプラットフォーム室組織開発グループ グループ長/マネージャー	H30/4/1 ~ H31/3/31(任期1年)	③
森田 良一	バリエントソフト(株) 代表取締役	H29/10/1 ~ H30/9/30(任期1年)	③
毛利 俊司	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部 副主任	H29/10/1 ~ H30/9/30(任期1年)	
美田 佳奈	麻生情報ビジネス専門学校北九州校 教務部 システム系サブリーダー	H29/10/1 ~ H30/9/30(任期1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 6月・11月

(開催日時)

平成29年度 第1回 平成29年 6月23日 18:00～18:30 全体会 19:00～19:30 分科会

平成29年度 第2回 平成29年11月10日 17:00～17:45 全体会 18:30～19:15 分科会

平成30年度 第1回 平成30年 6月22日 16:00～17:25 全体会 17:30～18:20 分科会

(開催日時 予定)

平成30年度 第2回 平成30年 11月9日 16:00～17:25 全体会 17:30～18:20 分科会

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

H30年度のカリキュラムについて、下記意見が出された。

- ①入社試験では読解力や対話能力を見ている。それに向けた対策をして欲しい。
- ②ノートをしっかり取らせる(手を動かす)授業もしっかり行ってほしい。

これらの意見を受けて、下記の通り検討を行うこととした。

- ①一般教養・文章表現等の科目にも力を入れ、カリキュラムを改善する。
- ②1年生の前期は座学が多いが、後期以降も座学授業を取り入れる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等でのヒアリング及びお客様アンケートの情報に基づき、プログラマやシステムエンジニアに共通して必要となっている最新の技術(特にwebプログラミングに関わる最新の技術)を学ぶ授業を、企業との連携により計画、実施していく。また、企業において、実際にそれらの技術を活用して業務を行っている方を講師とすることにより、狭い意味での技術だけではなく、企業における開発手法や、企業が求める技術レベルや業務に取り組む姿勢等も学ばせる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

最新技術とともに、企業における開発手法、企業が求める技術レベルや業務に取り組む姿勢等も学ぶことを目的とした科目と

なるよう、企業から派遣される講師と本校教員が、全授業開始前に授業内容、授業方法、評価方法などについて数回の打ち合わせを行い、シラバス(授業計画)を合同で作成する。

実際の授業は本校教員が主となって行うが、企業から派遣される講師にも適宜入っていただく。進捗や学生の状況について、企業から派遣される講師と本校教員の間で話し合い意見交換しながら進めていく。

また、評価についても、出来上がった作品の技術だけを問うのではなく、開発の過程や取組み姿勢も評価できるような評価基準を企業と連携して設定する。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
Webデザイン制作演習	基礎技術を学習した後、与えられたテーマのwebサイトを実際に作成、発表を行い、企業の方の講評を頂く。	(株)メンバーズ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「学校法人麻生塾 教職員研修規程」に基づき、計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。システムエンジニア科においては、IT業界において必要とされる、実践的かつ専門的な能力を育成するために必要な知識、技術、技能などについて実施される、職能団体や企業が実施する研修やセミナー等に、積極的に教員を参加させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

・研修名:日本電子専門学校web制作

連携企業等:日本電子専門学校

日程:平成30年2月8日～2月9日

内容:webデザイン科卒業・進級制作展の視察、カリキュラム・制作物の作成方法についての意見交換・勉強会

対象:教員1名

②指導力の修得・向上のための研修等

・研修名：ユースアドバイザー養成講習会

連携企業等：北九州市

日程：平成29年8月18日

内容：若者サポートのための効果的な面接方法の実習

対象：教員2名

・研修名：教育コーチング研修

連携企業等：全国専門学校教育研究会

日程：平成29年8月23日～8月24日

内容：対話の基本技術である傾聴と質問と承認のスキルを学ぶ

対象：教員1名

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

・研修名：IT経営カンファレンス2018 in福岡

連携企業等：福岡ITコーディネータ推進協議会

日程：平成30年7月28日

内容：AI・IoTを活用したIT経営への取組と成功事例の学習

対象：教員1名

②指導力の修得・向上のための研修等

・研修名：「コーチング」学生指導・保護者対応に生かす

連携企業等：組織デザイン・ラボ（講師：原口祐佳氏（組織デザイン・ラボ代表））

日程：平成30年8月30日

内容：学校における学生・保護者との対応事例を使い、コーチング手法を学ぶ

対象：教員1名

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5)学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11)国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

企業委員より、「企業としては就職後の定着率が気になる。学校としても組織的な取り組みをお願いしたい。」との意見をいただいた。この意見を受けて、まずは卒業生の1年後の在籍状況把握から着手することとし、就職先への定期的な訪問を実施することとした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
瀧口 博俊	福岡県立小倉商業高等学校 校長	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	高等学校関係者
小野 千恵	ゲームクリエイタ科2年生の保護者	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	保護者
西村 祥子	システムエンジニア科平成21年度卒業生	H29/10/1～H31/9/30(任期2年)	卒業生
安部 久美子	地域住民代表	H29/4/1～H31/3/31(任期2年)	地域住民
池田 隼人	(株)メンバーズ ラーニングプラットフォーム室組織開発グループ グループ長/マネージャー	H30/4/1～H32/3/31(任期2年)	企業関係者
森田 良一	バリエントソフト(株) 代表取締役	H29/10/1～H31/9/30(任期2年)	企業関係者
河上 和弘	(株)ジーン 第一開発事業部 事業部長	H29/10/1～H31/9/30(任期2年)	企業関係者
宮原 寿光	(株)RAID 代表取締役社長	H29/10/1～H31/9/30(任期2年)	企業関係者
上田 浩二	ガレージインク 代表	H28/10/1～H30/9/30(任期2年)	企業関係者
伊藤 洋平	(株)安川ビジネススタッフ 営業企画本部 営業企画課長	H28/10/1～H30/9/30(任期2年)	企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/>

公表時期:平成29年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、ASOの考え方、5つの特徴
(2) 各学科等の教育	学科コース一覧、国家資格・検定、就職情報、入学案内
(3) 教職員	教員一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート、留学生学習・生活サポート、留学生就職サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援、各種支援制度
(8) 学校の財務	貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育、海外での大学教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学生便覧))

URL: <http://www.asojuku.ac.jp/abkc/>

授業科目等の概要

(工業専門課程コンピュータシステム科)平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			基礎理論	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータの基礎理論を学ぶ	1前	46		○			○			○	
○			アルゴリズムⅠ	基本情報技術者試験取得にむけて、アルゴリズムの基礎知識を学ぶ	1前	76		○			○				○
○			ソフトウェアとハードウェア	基本情報技術者試験取得にむけて、ハードウェアやソフトウェアの仕組みや知識を学ぶ	1前	60		○			○			○	
○			ネットワークとセキュリティ	基本情報技術者試験取得にむけて、ネットワークの仕組みやセキュリティの知識について学ぶ	1前	60		○			○				○
○			データベース	基本情報技術者試験取得にむけて、データベースの構造や仕組み、内容を学ぶ	1前	46		○			○			○	
○			開発と管理と戦略	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータシステムの開発手法や管理、システム戦略について学ぶ	1前	30		○			○				○
○			アルゴリズムⅡ	基本情報技術者試験取得にむけて、アルゴリズムの応用知識を身につけ、設計ができるようにする	1後	76		○			○				○
○			テクノロジー技術	基本情報技術者試験取得にむけて、コンピュータシステム全般のテクノロジー技術について学ぶ	1後	90		○			○				○
○			C言語Ⅰ	C言語について、文法と基礎知識を学ぶ	1前	60		○			○				○
○			C言語Ⅱ	C言語について、応用知識を学びプログラムが組めるようになる	1後	30			○		○				○
○			C言語応用	C言語について、より深く応用知識を学び高度なプログラムが組めるようになる	1後	30			○		○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			基本情報基礎特別講座(秋向)	1年生の秋受験に向けた、午前対策の授業	1前	30		○			○		○	○	
○			基本情報特別講座 I (秋向)	1年生の秋受験に向けた、午後対策の授業	1後	16		○			○		○	○	
○			情報処理試験講座 I (春向)	2年生の春受験の国家試験対策授業	1後	60		○			○		○	○	
○			情報処理試験特別講座 II (春向)	2年生の春受験の国家試験対策、直前授業	2前	76		○			○		○	○	
○			情報処理試験講座 II (秋向)	2年生の秋受験の国家試験対策授業	2前	30		○			○		○	○	
○			情報処理試験特別講座 II (秋向)	2年生の秋受験の国家試験対策、直前授業	2後	60		○			○		○	○	
○			情報処理活用 I	Windowsの基礎知識、Excelの操作方法を学ぶ	1前	30			○		○			○	
○			情報処理活用 II	Excelの関数やグラフ機能など、応用知識を学ぶ	1後	46			○		○			○	
○			データベース演習	Accessの操作方法を学ぶ	2後	16			○		○			○	
○			実務文書作成	実務的な文書作成技法を、WordやExcelを用いて学ぶ	2前	16			○		○			○	
○			Excel VBA	ExcelのVBAを学び、応用力を身につける	2後	16			○		○			○	
○			C言語演習	C言語のプログラミング実習を行い、実際にプログラムを作成し、知識を深める	1後	46			○		○			○	
○			Oracle SQL I	Oracle社のSQLについて学び、BronzeSQL I基礎の資格取得を目指す	1後	60			○		○		○		

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			Oracle SQL II	Oracle社のSQLについて学び、BronzeSQL I基礎の資格取得を目指す	2前	30			○		○				
○			Visual C# I	Microsoft社のVisualStudioから、C#の基礎から実際のプログラミングまで学ぶ	2前	60			○		○				
○			Visual C# II	Microsoft社のVisualStudioから、C#のプログラミングをより深く学ぶ	2後	30			○		○				
○			Webデザイン基礎	HTMLの基礎を学び、タグの使い方を学習する。また、CSS等を使ったwebサイトの作成方法を学ぶ	2前	60			○		○				
○			Webデザイン制作演習	JavaScriptやJquery等を使い、動きのあるwebページの作成方法を学ぶ	2後	60			○		○		○	○	○
○			Java基礎	Javaの文法やオブジェクト指向プログラミングの基礎を学ぶ	1後	60			○		○				
○			Javaプログラミング	Javaを使い、実際にオブジェクト指向プログラミングでプログラミングを学ぶ	2前	46			○		○				
○			Java応用	Javaを使い、実際にオブジェクト指向プログラミングでシステムを開発してみる	2後	46			○		○				
○			アプリケーション開発	さまざまなアプリケーション開発技法を学ぶ	2後	30			○		○				
○			一般教養 I	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	1後	16			○		○			○	
○			一般教養 II A	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	2前	16			○		○			○	
○			一般教養 II B	入社試験に備えた一般教養を学ぶ	2後	16			○		○			○	
○			ビジネス実務	入社後のビジネスマナーや書類の作成方法を学ぶ	1後	16			○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			文章表現	論文の書き方や書類、資料の作成方法を学ぶ	2前	16		○			○			○	
○			GCB I	グローバルシチズンベーシック I（感謝心と思いやり）について学ぶ	1後	16		○			○			○	
○			GCB II	グローバルシチズンベーシック II（志をたてる）について学ぶ	2後	16		○			○			○	
○			就職実務 I	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う	1後	30		○			○			○	
○			就職実務 II	就職活動に向けて、職種研究や企業研究、面接練習を行う	2前	46		○			○			○	
○			卒業研究 I	2年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品（システム）を設計、構築していくことを学ぶ	2後	30			○		○			○	
○			卒業研究 II	2年間の成果として、個人やチームでテーマを決め、作品（システム）を設計、構築していくことを学ぶ	2後	90			○		○			○	
合計					44科目		1836単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
ア. 各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 イ. 卒業基準検定を取得していること。 ウ. 学年の出席率が90%以上であること。 エ. 学生としてふさわしい生活態度であること。 上記を満たせない者は、他の検定資格、学習態度、出席状況などを参考に卒業判定会議により判定する。 ※留年した者は、その学年の全科目を再履修しなければならない。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。